



初夏と和歌

校長 尾崎 淳一

「春過ぎて 夏来にけらし 白妙の 衣干すてふ 天の香具山」 持統天皇

これは、『百人一首』の2番目に並べられている有名な和歌です。現代語に訳すと、「春が過ぎて、夏が来たようだわ。夏になると白い衣を干すという天の香具山に、真っ白な衣が干されていますから。」というような意味でしょうか。ちょうど今頃の初夏の季節、山の新緑と真っ白な衣のコントラストが鮮やかで爽やかな歌ですね。作者の持統天皇は第41代天皇、有能な女帝だったそうです。お会いしたことはありません……。

爽やかな初夏と言っても、日差しはとても強いので要注意です。私は、19日(日)に、山に囲まれた岐阜市のテニスコートで、半袖・短パンの軽装で、気持ちよくソフトテニスの試合を観戦していました。少し曇っていたので油断してしまったようです。夜になると腕や腿がひりひりと痛み、肌が真っ赤になってきました。私の自慢、雪のように白い肌が台無しじゃないですか……。10日後、さすがに赤味はひきましたが、写真のように時計の跡がくっきりと分かります。もはや火傷ですね。



ところが、日焼けより何倍も怖いニュースがありました。ソフトテニス観戦の4日後、そのテニスコート周辺で「クマ」が出没したとの報道です。「クマもソフトテニスを観に来たのかな」などと呑気なことは言ってられません。エサに間違われず、本当によかったです。ただ、私は全身が鍛え抜かれた筋肉で覆われており、硬くて美味しくないので狙われませんが……。その時は、「山が近くて、クマでも出そうな公園だよな。でも岐阜市内だからあり得ないな」などと話していましたが、あり得ました。怖過ぎます!

「から衣 きつつ慣れにし つましあれば はるばる来ぬる たびをしぞ思ふ」 在原業平

知立市の初夏と言えば、やはり「かきつばた」ですね。上の和歌は多彩な技法が使われる優れた作品ですが、特に「折句」と言って、各句の初めに「か・き・つ・ば・た」の5文字が織り込まれていることで有名です。なお、「八橋かきつばた園」では、4月25日から「かきつばたまつり」が始まりました。数年前は花がうまく咲かないと心配されましたが、今年は順調に生育しているとのこと。保存会の皆様のご尽力の賜物でしょう。小学校の頃から、かきつばたの保存に関わっている竜北生もいます。素敵な取組ですね。



気付いた人も多いと思いますが、竜北中学校でも見事な「かきつばた」が咲きました。竜北環境委員会の皆さんと共に花を育て、一年を通して校内を美しく彩ってくださるM教諭が、半ば泥に埋もれていた池を掘り返し、土作りの段階から丹精込めて育て上げた作品です。M教諭曰く「水の調節が難しいんですよ。今年は咲かないかも知れません」とのことでしたが、何とも見事な紫色の花が開きました。校内にかきつばたが咲く学校は、それほど多くはありません。せっかくの機会ですから、本校の「花の匠」が手掛けた『竜北かきつばた』をしっかりと目に焼き付けてくださいね。

今日から5月です。初夏の陽気のように、心身ともに爽やかに、「竜北生、Go!!」

多くの保護者の皆様に、三者懇談会へお越しいただき感謝いたします。5月もお願いします。ご来校の際は、体育館南西の池に咲く『竜北かきつばた』をぜひご鑑賞ください。

(令和8年5月1日)